

「BELIEVE」

BELIEVE

2018
夏号
VOL.65

」

当院のがん診療センターについて



川田優也「海底は泡と光のミュージカル」・制作年/2009・素材/色紙、紙
〈エイブルアート・カンパニー所属 URL:<http://www.ableartcom.jp>〉

シリーズ **情熱の白衣 医師の素顔** 65 第一放射線診断科部長 **伊藤 亨**

- 食だより「卵とトマトのスープ」／お薬ミニ知識「お薬手帳の利用について」 ●『がんサポートチーム』からのお知らせ／＼かかりつけ医、をもちましよう
- 現況報告 入院前サポートセンター／『DPC特定病院群』に指定されました

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは

人道・博愛の赤十字精神に基づき

すべての人の尊厳をまもり

心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります



当院の がん診療センター について

本誌「びり〜ぶ」では、これまでさまざまながんの解説や当院での診断、治療方法、実績などを紹介してきました。日本人の死亡原因の第1位であるがんの治療には、治療法の進歩と多様化に伴い、総合的な診療体制が必要になっています。今号は、国のがん診療連携拠点病院としての当院が取り組む、患者さんとご家族を支えるための体制などについて紹介します。



副院長・がん診療センター長
今田 和典

京都大学医学部卒業後、京都大学医学部附属病院、松江十字病院、小倉記念病院などを経て、平成27年に当院に就任。平成29年、副院長兼血液内科部長に就任。同年12月よりがん診療センター長に就任した。

◆がん診療センターとは◆

がんは日本人にとって死亡原因の第1位であり、これからの高齢社会においては、生涯にがんにかかる頻度は2人に1人とされています。一方、がん診療の進歩は著しく、新しい治療法、新薬が次々と登場し、予後も大きく改善しましたが、治療の多様化に伴い、高度な専門性と同時に、診療科の垣根を超えた総合的な診療体制が求められています。また、緩和ケア、がん相談、就労支援など、医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーなどの多職種によるチーム医療をもつとも必要としています。



▲外来通院治療センター

当院は国のがん診療連携拠点病院として、がん診療を病院の中核事業と位置づけ、診療の充実、質の向上に取り組んでいます。化学療法室（外来通院治療センター）を拡張し、放射線治療機器を最新の機器に更新、腫瘍内科緩和ケア内科を開設し、専門的診療の向上をめざしています。緩和ケア外来、緩和ケア

チームを整備し、早期から緩和ケアに取り組んでいます。また、「患者情報室」を開設し、がんに関する情報を患者さんに提供しています。がん患者さんの合併疾患に対しても、総合病院の特長を生かして診療にあたっています。

「がん診療センター」は、がん診療に求められる総合的な診療体制、チーム医療を充実させ、横断的な対応ができるよう、がん診療を統括する目的で設置し、がん患者さんを身体的、精神的、社会的にサポートする体制を整えています。これからも「がん診療センター」として、患者さん

とご家族の方々のさまざまな苦痛や悩みに誠実に対応するよう努めてまいります。病気に対する不安や心配がございましたら、遠慮なくがん相談窓口や職員にご相談ください。

◆がん診療センターの取り組み◆

1. 安全で良質ながん治療を提供します。
2. がんについて相談できる体制を整え、早期から苦痛を和らげる緩和ケアを実施します。
3. 患者さんに必要ながん情報の提供を行います。
4. 地域のかかりつけ医と連携を図り、地域での生活を支えます。
5. 質の高いがん診療をめざし、医療従事者の教育・研修に努めます。



▲患者情報室

◆当院のがん診療体制◆

がん診療センター長を中心として、がん診療にかかわる院内の左記の部門の職員が連携して患者さんへ高度な治療を提供していきます。



がん診療サポート部門	がん登録部門	がん診療連携部門	がん相談部門	緩和ケア部門	放射線治療部門	がん化学療法部門	臨床治療部門
チーム医療（NST、認知症ケア、リハビリテーション等の実践）	院内がん登録の実施	患者さんの紹介・逆紹介、がん診療連携パスの運用	がん相談支援センター、がん看護相談室での相談 患者情報室での情報提供	緩和ケアチームによる診療	リンアック等を用いた放射線治療	外来通院治療センターでの化学療法	入院および外来でのがんの集学的診療 試験・臨床研究

「がん」のご相談について

がん相談支援センター

大阪赤十字病院では地域がん診療連携拠点病院として、がん相談支援センターを設け、当院受診の有無にかかわらず、がんに関するいろいろな疑問や不安、悩みに対してご相談に応じています。

- ・ がんと診断されたが、今後の生活が不安
- ・ 医療費の制度について知りたい
- ・ 退院後の療養生活についてどうしたらいいのか
- ・ がん(抗がん剤含む)の治療について知りたい
- ・ 緩和ケアについて知りたい
- ・ 金銭的な問題があり、治療を続けることが難しい

上記のような件でお困りのとき、まず医療ソーシャルワーカーが相談を伺います。内容により、専門の看護師が対応する「がん看護相談」のご予約をお取りします。

日 時	月～金 8:30～17:00 ※祝日、年末年始、5月1日は除く
場 所	がん相談支援センター 本館2階8番窓口
相 談 員	医療ソーシャルワーカー、看護師
費 用	無料
予約方法	面談・電話・Eメールにて対応 電話：06-6774-5152 Eメール：syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

がん看護相談

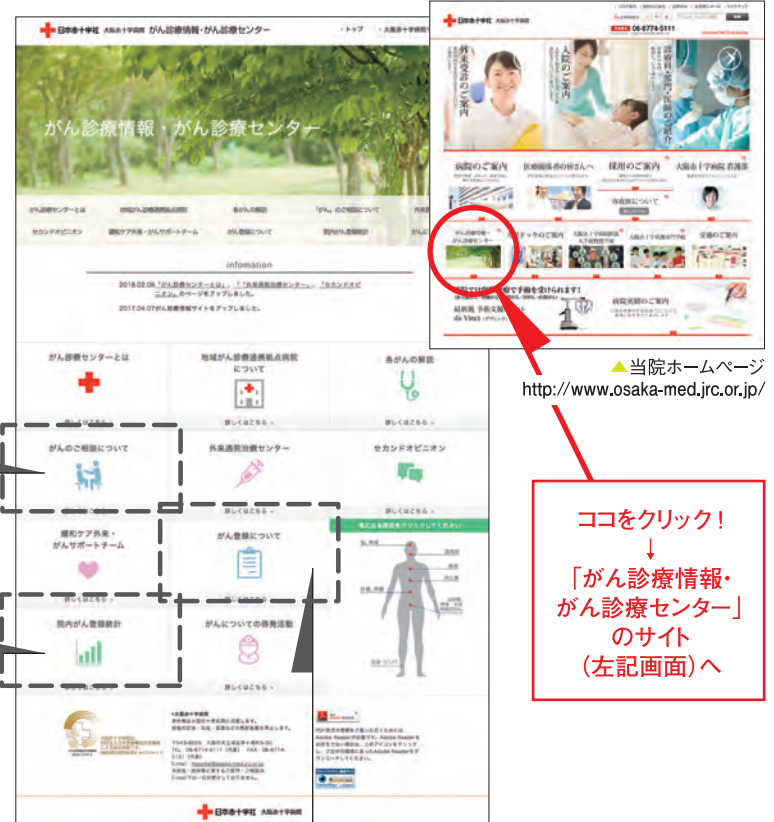
がんの診断を受けた患者さんやご家族が、自宅で療養中に困っていることや治療をどのように選択したらいいのか、どこで過ごすことができるのかなど、がんに伴うつらさを解決できるように、がん看護相談室を開設しています。

がんの専門的な知識を持つ相談員(専門看護師・認定看護師)が、相談を伺います。

- ・ 痛みがあつてつらい、夜も眠れない
- ・ 吐き気がある、息が苦しい、体がしんどい
- ・ がんと知ってから気持ちの落ち込みが続いている
何もやる気が起こらない
- ・ これからの治療をどのように選択したらいいのか
決められない
- ・ これからの療養場所はどうか?
家で在宅医療を受けることができるのか?
- ・ 家族として、どのように接していいのかかわからない
- ・ 話す内容がまとまらないが、まずは話を聞いてほしい

上記の件でお困りのときは、気軽にご活用・ご相談ください。

対 象 者	当院の受診歴にかかわらず、どなたでも相談可能 ※当院に入院中の患者さん・ご家族の方は、 病棟看護師に相談ください
日 時	火・金 14:00～17:00 (1件につき約30分間) ※予約制、最終受付時間は16:30
場 所	がん相談支援センター 本館2階8番窓口
相 談 員	がん性疼痛看護認定看護師、 緩和ケア認定看護師、がん化学療法認定看護師、 がん看護専門看護師
費 用	無料
予約方法	窓口：がん相談支援センター 外来2階8番窓口 電話：06-6774-5152 Eメール：syakaika@osaka-med.jrc.or.jp



▲当院ホームページ
<http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>

ココをクリック!
↓
「がん診療情報・
がん診療センター」
のサイト
(左記画面)へ

がん登録について

がん登録は、病院で診断されたり、治療されたりしたすべての患者さんのがんについての情報を、診療科を問わず病院全体で集め、その病院のがん診療がどのように行われているかを明らかにする調査です。

当院は平成18年に「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けており、指定要件のひとつである院内がん登録を、厚生労働省が定める「標準登録様式」に基づき実施しています。

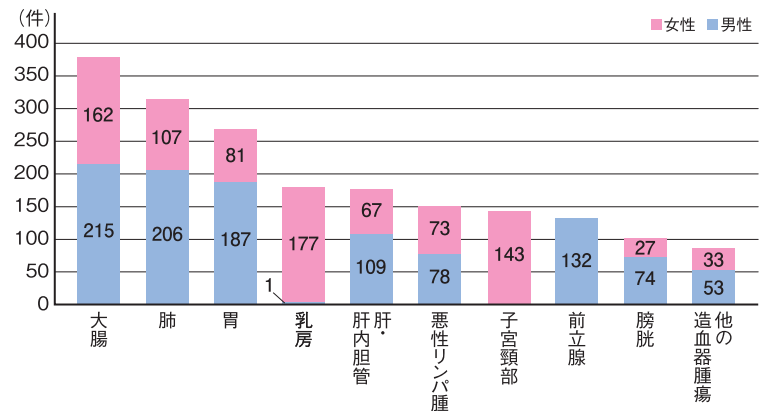
院内がん登録で収集された情報は、病院では自院の診療実態の把握やがん医療の質の向上のため、国や都道府県ではがん対策の企画立案やがん医療の分析および評価を行うことなどに活用されます。このようなことを目的として、収集された情報は以下のように利用・提供いたします。

- 国立がん研究センターがん対策情報センターへの提供 ● 研究等への匿名化での資料提供
- 地域がん登録・全国がん登録への提供 ● 自施設のがん医療実態の把握
- 患者さんへの情報公開の基礎資料 ● 診療活動の支援、教育のための集計結果提供

◆「院内がん登録統計」欄に、がん登録件数や年間推移をがんの部位別・ステージ別にまとめた統計を掲載していますので合わせてご覧ください。

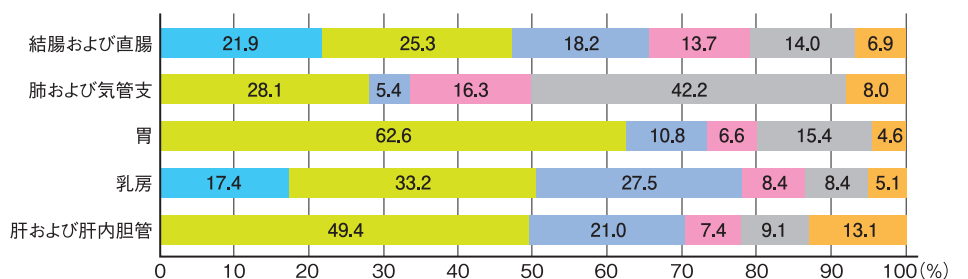
★当院がん登録数 上位10位(男女別) (2016年診断 2,704件)

→ がんの部位別(原発部位)集計を上位10位・男女別に示しています。



★5大がん(大腸・肺・胃・乳房・肝臓)における治療前ステージ

→ 5大がん別の治療前ステージの割合を示しています。



画像から隠れた異常を見つけ、病気を読み解く。医師、患者さんを支える。縁の下の力持ち。でありたい。

第一放射線診断科部長 伊藤 亨



高度な画像技術の速さと診断と、デジタルとアナログの戦いです。

好きなことは「のんびりする」と、「嫌いなことは「争いごと」」。自身のことを「もともと、これが好き」というものがありまじいですね。」と話す一方で、放射線診断科の仕事について聞くと、「CTやMRI画像を読み解いて、診断に迫る仕事」と語る。この診断を基にして、治療が進んでいくことの責任や、熱意がなければできない仕事をする伊藤医師の素顔を伺った。

「画像診断は、画像に異常な点があるかどうかの所見をまとめ、こんな病気が考えられる」と診断して、鑑別します。放射線科医1人あたり1日40件ほどの画像を診断しますが、私が医師になった頃

とは比べ物にならないくらい、大量の画像が出てきます。時代とともに撮影機器のレベルが高度になってデジタル化しても、医師の診断はアナログです。「検査に必要な設備がそろっているとはいえ、依頼される検査数の方がはるかに上回っている状況。病気によって診断時間も異なり、数が多いと異常を見逃してしまうリスクもあるという、大変な仕事。「ある程度のレベルの機器を、安全に効率よく使用でき、出てきた画像を適切に診断する。言葉にすると簡単にできそうだと思うのですが、実際には、患者さん、機器、医師、技師数がバランスよくそろった状態をつくるのが、難しいところですね。」

新部門だった放射線診断、海外留学。その世界に入っただけでわかることがあります。

外科医だった父親の影響を受け、医学部に入り、魅力を感じたのは放射線診断科だった。「まだMRIもなく、CTが登場した頃で、人間の体が輪切りになる技術に惹きつけられました。」新しい医療部門で、新しいことが勉強できる放射線診断医の道を選び、

その後、博士号取得の過程を経て、アメリカ留学も経験した。「今は知識や技術も、インターネットから学べる時代でもあります。実際に異文化の世界に身を置くと、多くのものが得られます。自分が大きくなったように感じられ、自分のことだけを考えていた狭い世界から、脱却できたように思います。」



30年前に留学したハーバード大学MGH放射線科での読影現場。電動式のシャウカステン(発光ディスプレイ)に職員がフィルムと依頼用紙をセットし、放射線科医が音声入力したレポートを秘書がタイプしていた。

医師であれば、ある程度まで画像を診ることはできるが、忙しい外来診療のなかで、じっくり診て考える時間がない。「そのため縁の下の力持ちのような仕事」が、伊藤医師が思う放射線診断医の役割。だからこそ、画像を診て、大事なところを見落とすことなく診断できたとき、やりがいを感じ、さらに主治医の診断からもう一歩進んだ意見ができたとき、誇らしく思うという。患者さんを救う医師たちを支える、その仕事と向き合うには、情熱なしにはできないことなのである。

3月9日岐阜県生まれ。京都大学医学部卒業後、同大学医学部附属病院放射線科を経て、京都大学医学部大学院にて博士号を取得、米国ハーバード大学に留学。帰国後、京都大学医学部放射線科・核医学科助手に従事し、同大学医学部附属病院放射線科助教授に。平成16年に神戸市立医療センター中央市民病院放射線科部長を務め、平成30年に当院に赴任、第一放射線診断科部長に就任した。

看護師レポート 65 KAZUE OHASHI

8月30日滋賀県生まれ。大阪赤十字看護専門学校卒業後、当院に就職。救急外来・CCU(集中治療)にて10年以上の看護経験を積む。平成13年より看護係長として病棟看護を担当し、平成23年より3階外来の看護部長、平成27年に集中治療部の看護部長に就任、現在4年目を迎えた。



●看護師長 大橋一恵

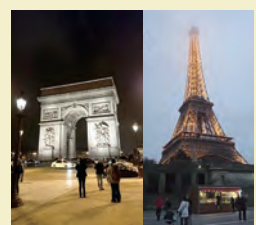
平成27年に集中治療部の看護師長となり、今年で4年目になります。46名のスタッフの看護ローテーション作成や患者さんのベッドコントロールなど、日々の管理調整を行っています。

緊張度の高い現場でも、看護師一人ひとりの経験と能力を発揮できる、職場をつくっていききたい。

看護学校を卒業して、救急外来に配属となり、急性期の患者さんの看護を10年以上経験してきました。どんな患者さんが運ばれてくるのか、初めてのことに必死に、がむしゃらに取り組みだけでしたが、大変だと思っただことはなかったですね。「助けない」という思いで迎えた患者さんに、できる限りの治療を行う現場で、充実した毎日でした。

看護師になるきっかけは、高校を卒業したときに、自分が大学生や会社員になるイメージが持てず、母親から「手に職をつけたら？」というアドバイスで看護師を選びました。今思うと自分に合っていたと思います。

休日は身体を休めることが多いですが、スタッフ時代は、国内外を問わず、よく旅行に行っていました。初めて海外旅行をしたフランスが好きで、何度も行きました。機会があればまた行ってみたいですね。



凱旋門、エッフェル塔、魅了されたフランス旅行での撮影写真。

昨年、集中治療部の担当医師が変わり、患者さんの受け入れ数も増え、重症の患者さんが次々に運ばれてくる大変な状況が続きました。まだスタッフの数も十分でなかったのに、誰も辞めることなく集中治療を進められたことに、スタッフの底力を感じました。緊張度の高い現場では、スタッフ一人ひとりが力を発揮することが必要ですが、それなりのストレスも伴います。スタッフが少しでも居心地よく働けるよう、見守り、支えていきたいですね。集中治療を受ける患者さんへの必要な看護を学べる環境と、スタッフの経験が活かせる職場づくりが、これからの私の仕事だと思っています。

卵とトマトのスープ



夏の暑さで食欲が落ちたり、バテ気味になったりしていませんか？ だからといって食事をおろそかにすると、ますます体力が落ちてしまいます。今号では、手軽で栄養面でも優秀な卵を使ったメニューを紹介します。

卵には、たんぱく質・鉄・ビタミンA・ビタミンEなどが多く含まれ、同時に、ビタミンCと食物繊維以外の栄養素がまんべんなく含まれています。しかし、卵には悪玉コレステロールも多く含まれているので、医師に摂り過ぎに気をつけるように注意を受けている方は、1日1個程度にとどめるようにしましょう。

今回一緒に使う食材はトマトです。「トマトが赤くなると医者青くなる」ということわざはご存知でしょうか？ これはトマトが赤く熟す頃になると、医者の出番が減ってしまい顔色が青くなるというものです。つまり、トマトを食べると健康になり、病院に行く必要がなくなってしまうので、医者の稼ぎが少なくなってしまうという意味だそうです。そんなトマトの色素成分であるリコピンには、多くの病気の原因になる活性酸素を除去する働きがあります。さらに、ビタミン類やコラーゲンを多く含んでおり、血管を丈夫にしたり肌をつやつやにしたりする働きがあります。

また、暑さは腸にも影響するので、夏場はおなかが緩くなることも多いです。そんなとき、冷たいものはNG。スープなど、温かく消化の良い食事で体を温め、腸を癒してあげましょう。



〈材料〉(2人分)

卵	2個
トマト(くし切り)	1個
にら	2束(3~4cm)
ごま油	小さじ1
コンソメスープの素	小さじ2
塩	少々
こしょう	少々
水	300cc

作り方

- 鍋にごま油を入れて熱し、トマトを入れて弱火で炒める。
- ①に水とコンソメスープの素を加えて約10分煮る。
- 塩、こしょうで味をととのえる。
- にらと溶き卵を加えて仕上げる。



お薬ニ知識

薬剤部 薬剤師 向井 雄治



お薬手帳の利用について

皆さまは、お薬手帳を利用していますか？ 今回は、「①お薬手帳の役割、②利用するメリット、③利用時のお願い」について、お伝えしたいと思います。

①お薬手帳の役割

お薬手帳は、皆さまが普段使用しているお薬の情報(薬剤名・用法用量・処方日数等)を記録することに用いられます。また、多くのお薬手帳には、住所や血液型、副作用・アレルギー歴、既往歴などを記載するスペースが設けられています。正しく利用することで、皆さまが医療機関を訪れた際に、お薬の情報を含めさまざまな情報を医療者へ正しく伝える役割を果たします。

②お薬手帳を利用するメリット

お薬手帳を通じて、正しい情報が医療者へ伝わることで、お薬の相互作用や重複処方へのチェックが可能となります。また、過去のアレルギー歴や副作用歴などを記載しておくことで、治療前にリスクのあるお薬の使用を回避することが可能になります。さらに、緊急時には記載されている情報により、治療の最適化にもつながります。

③お薬手帳利用時のお願い

お薬手帳は1冊にまとめてください
医療機関ごとにお薬手帳を作成していませんか？ お薬手帳は記載された情報を連続的に見ることで、真偽を発揮します。お薬手帳が複数に分かれていると、情報の見落としが生じてしまい、副作用などの予期せぬ事態を引き起こしてしまうかもしれません。必ず1冊にまとめて持ち帰ってください。

普段から携帯してください

医療機関にかかるときだけでなく、お薬手帳を持参していませんか？ 日常のなかで、急な発病や自然災害にいつ見舞われるかわかりません。緊急時、お薬手帳に記載されている情報は非常に有益なものです。普段からお薬手帳を携帯し、緊急時には自分のことを正しく伝える手段として、有効に利用していただきたいと思います。

今回は、お薬手帳の利用についてのポイントをお伝えしました。薬剤師として、皆さまがお薬手帳を正しく利用することで、安全な医療の提供につながればと思います。



仕事を辞める前にはまずご相談を!!

がん相談支援センター 認定がん専門相談員 岩村 将大

がん相談支援センター 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。

TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

「がん」と「仕事」について、一緒に考えていきましょう

がん患者さん、ご家族の方へ
就労されている方ががん
と診断されたとき、頭に浮
かぶことのひとつは「仕事
をどうしよう…」という
ことではないでしょうか。

現在、がん罹患患者数の約
43%が20～69歳で、約3人
に1人が就労可能な年齢
で罹患しています。また、
がん患者さんを対象とし
た調査では、がんの診断後、
勤務者の34%が依願退職・
解雇され、自営業者の17%
が廃業しているというデー
タもあります。その一方で、
がん治療の進歩に伴い、働
きながら治療を受けられ
ている患者さんも増加して
います。

そのようななかで、国や
都道府県でも、「働く世代
の治療と仕事の両立支援」
をがん対策の柱のひとつと
位置付けています。

当院のがん相談支援セ
ンター(本館2階8番窓口)では、社会福祉士
である相談員とがん認定看護師が、治療や療
養生生活で不安なことや、職場への伝え方、利用
できる制度、傷病手当金や障害年金など、経
済的な相談にも応じています。また、大阪府の
社会保険労務士会と協定を結び、人事労務
管理、年金など、より具体的な情報が必要な場
合は、労働問題の専門家である社会保険労

務士からアドバイスをいただいで対
応しています。
がんを診断された直後は誰でも
混乱します。まずは落ち着くことが
大切です。すぐに仕事を諦めること
はありません。気持ちが落ち着いてき
たら、まず治療と仕事に関する情報
を整理することから始めましょう。
治療に関する情報、利用できる制度
に関する情報、そして、働くことへの
思いなど、一緒に情報を整理する
お手伝いをさせていただきます。

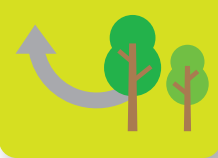
本館2階の患者情報室では「がん
と就労」に関する各種パンフレットを
取り揃えています。そちらも気軽に
ご利用ください。

平成30年度の診療報酬改定におい
て、治療と仕事の両立支援に関する
診療報酬「療養・就労両立支援指導
料」が新設されました。これは、病院の
主治医と職場の産業医の連携のもと
で、がん患者さんの治療と仕事の両立
に向けた支援を充実させることを目
的として設けられました。それにより、
主治医と職場の産業医との文書によ
る連携が可能になり、必要な医療上
の注意点を職場へ情報提供する
ことができるようになりました。

『働く』ということは、経済的な意味
合いだけではなく、やりがいや生きが
いにもつながります。些細なことでも
構いません。悩んだときは、スタッフに
ご相談ください。

ご相談ください。

登録医紹介



「かかりつけ医」をもちましょう

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる「かかりつけ医」をもちましょう。

かかりつけ医

日ごろの健康管理
専門的な治療が
必要なら当院へ紹介

紹介

逆紹介

大阪赤十字病院

高度医療・専門医療
症状が安定したら再び
「かかりつけ医」へ

なか がわ 中川医院

- 院長/中川 俊太郎
- 診療科/内科
- 住 所/大阪市生野区鶴橋1-6-26
- 電 話/06-6741-7530
- 訪問診療/有
- 診療時間

外 来	月	火	水	木	金	土
午前(9:00~12:00)	○	○	△	○	○	△
午後(16:00~17:30)	○	△	△	○	△	△

※水・日・祝日は休診 ※△(土)は予約診察のみ
※月・木の午後は再診のみ



中川院長

特長 大阪赤十字病院などの大病院に任せるべきことは任せ、かかりつけ医として当院ですべきことは何かと考えて診療を行っています。病状に応じて専門医へ紹介する際には、詳しい診療情報の提供とともに患者さんの希望を専門医へ橋渡しすることを旨としています。詳しくは当院のホームページ(<http://www.011.upp.so-net.ne.jp/nakagawa-iin/>)、または「中川医院 大阪市生野区」で検索の上、ご参照ください。

地域の皆さまへ

祖父の代から90年近く地域に密着して診療を行ってきました。人間の身体と心を総合的に診療することが重要です。初期治療、退院後の治療では患者さんの家庭や仕事場での立場を理解し、お薬だけに頼らず生活習慣を見直すことが必要と考えています。地域の皆さまの生活に密着してかかりつけ医の良さを生かして診療していきたいと思っております。

い りょう ほう じん かわ むら 医療法人 河村クリニック

- 院長/河村 裕憲
- 診療科/泌尿器科・人工透析・(一般内科)
- 住 所/大阪市天王寺区上本町5-6-9
- 電 話/06-6761-6788
- 往診/有
- 診療時間

	外 来	月	火	水	木	金	土
泌尿器科	午前(10:00~13:00)	○	△	○	△	○	△
一般内科	午後(17:00~19:00)	○	△	○	△	○	△
人工透析	午前(8:30~22:00)	○	△	○	△	○	△
	午後(9:00~14:00)	○	△	○	△	○	△

※日・祝日は休診 ※△(火・木・土)は予約診察のみ



河村院長

特長 当院は、昭和55年より上本町6丁目の交差点のすぐそばに開院しています。人工透析を中心に、外来としては泌尿器科・(一般内科)疾患に対する診療を行っており、天王寺区にお住まいの皆さまに限らず、近鉄・地下鉄沿線の方々にもご利用いただいています。また、人工透析患者さんに対しては、通院困難な方への自動車での送迎対応を行っています。

地域の皆さまへ

人工透析加療を受けられる患者さんにおかれましては、1週間に3回通院されるのが通常です。快適かつ、十分な透析治療を受けていただけるように、最新の機器を備え、専門のスタッフがサポートさせていただきます。泌尿器科・一般内科疾患の患者さんにおかれましても、必要に応じ、大阪赤十字病院へ紹介し、かかりつけ医としての役割を担うことができればと思っています。お気軽にご相談ください。

副院長 兼 入院前サポートセンター長
今田 和典



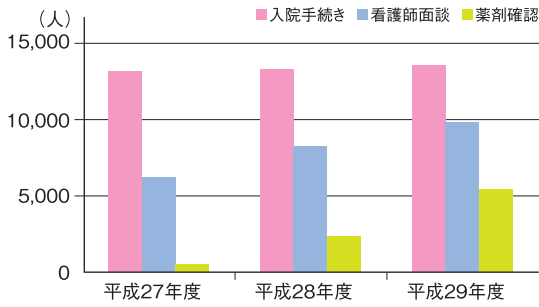
入院前サポートセンターのスタッフ



入院前サポートセンターは、安心・安全な入院医療の提供と、急性期治療後の療養生活をサポートすることを目的に平成27年4月に開設しました。

3年経った現在、職員数も増え、看護師7名、事務6名、薬剤師1名(担当制)の多職種で協働運営しています。

■入院前サポートセンター利用者



開設当初、薬剤師と看護師は、外科手術と大腸内視鏡検査の患者さんのサポートのみでしたが、昨年春からは、予定入院手術を受けるすべての診療科の患者さんのサポートができるようになりました。

本年度より血液内科や消化器内科など内科系診療科も対象となり、入院前サポートセンターの利用者は年々増加しています。患者さんには、入院手続きの後、看護師面談を受けていただいています。また、薬剤師により検査や治療、手術の際に中止しなければならないお薬があるかどうかの確認も行っています。

看護師面談では、患者さんやご家族の不安や心配ごとが解決できるようなサポートを心がけています。特に、昨年度からは急性期治療後の療養生活のサポートを強化しています。例えば、75才以上の高齢の患者さんの場合は、必ず介護保険の利用状況や担当ケアマネジャーの名前などを確認するようにしています。これは、病棟担当者が入院後、早期にケアマネジャーとの連携を取り、患者さんが住み慣れた地域で退院後の療養ができるよう調整することを目的としています。

また必要な患者さんには、社会資源の利用や当院での治療を終えた後の療養先の説明、情報提供をしています。

入院前サポートセンターの **ココ** が変わりました

1 「薬剤師外来」の看板を掲げました。

前号(びりぶ春号VOL.64)でも紹介しましたが、担当薬剤師が常駐し、現在使用されているお薬サプリメントなどの服用状況の確認や、検査・治療・手術の際に中止しなければならないお薬の確認をしています。電子カルテに記録し、主治医に情報を提供します。

2 アメニティ展示コーナーを設けました。

個室希望の際に無料提供しているパジャマ・タオルなどの商品を、手に取ってご覧いただけます。総室希望の患者さんで有料レンタルを希望される際は、入院病棟で申し込み書類を提出してください。入院当日よりご利用できます。



3 当日入院患者さん専用受付コーナーを設けました。

当センターのご利用が多くなるにつれ、受付カウンターが混雑するようになりました。そこで、『当日入院患者さん専用受付コーナー』を設け、動線を区別しました。ここでは、患者さんのお名前を確認後、入院病棟のお知らせと案内カードをお渡しします。必要書類は、すべて病棟で提出していただきます。

4 サポートセンター内に、「栄養指導室」が移設しました。

平成28年4月の患者情報室(2階 緩和ケア外来棟)の開設に伴い、移設しました。医師からの指示を受け、管理栄養士が患者さんの病状に合った適切な食事内容について説明をしています。

◆患者さんへ

入院申し込み、看護師面談は時間帯によっては、混雑のためお待ちいただく場合があります。ご質問など確認しておきたいことを考えておく時間などに活用いただくと幸いです。外来で主治医に聞き忘れたこと、不安なこと、何でもお伺いしますので、遠慮なくお申し出ください。

当院は厚生労働省より

『DPC 特定病院群』に指定されました

『DPC 特定病院群』とは、大学病院本院に準じた高密度な治療を提供できる施設のことをいいます。

全国にある急性期医療を提供する病院が導入している入院医療費の定額支払い制度が『DPC』になります(以下、この制度を導入している病院を『DPC 病院』と標記します)。

DPCとは...

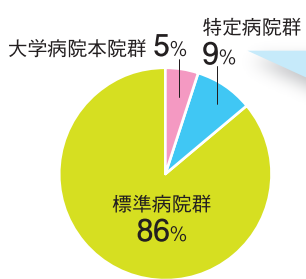
1回の入院治療で、最も治療を行った疾患に応じて国が定めた「1日あたり金額」で計算する医療費制度です。ただし、手術、リハビリなどの一部の治療は別途加算されます。

DPC 病院には、大学病院本院群、特定病院群、標準病院群の区分があり、厚生労働省は、大学病院本院に準ずる医療レベルの実績がある病院として当院を特定病院群に指定しました。

大学病院本院に準ずる医療レベルとは、難しい手術、重篤な内科疾患の件数、重症患者に対する診療の実施などの医療実績が大学病院とかわらないことをいいます。

全国にある1,730病院のうち、特定病院群は155病院指定されており、大阪府では当院を含めて14病院が指定されています。このDPCを含め、国は来たる超高齢化社会(2025年問題)に向け、医療機能の分化と連携の強化(地域医療構想と地域包括ケアシステム)を推進してきました。

■DPC病院の区分内訳



大阪府のDPC特定病院群

- 大阪赤十字病院
 - 大阪国際がんセンター
 - 大阪警察病院
 - 北野病院
 - ベルランド総合病院
 - 淀川キリスト教病院
 - 堺市立総合医療センター
 - 大阪急性期・総合医療センター
 - 関西電力病院
 - 岸和田徳洲会病院
 - 大阪市立総合医療センター
 - 大阪府済生会中津病院
 - 国立循環器病研究センター
 - りんくう総合医療センター
- 計14病院

今後当院は、特定病院群として地域の医療機関と連携を図りつつ、高度な医療機能を維持し、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。

News この度の地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます 大阪北部地震 ～当院から医療チームを派遣しました～ 緊急救援活動報告

去る6月18日に発生した大阪北部地震では、当院の被害はエレベーターが地震を感知して自動的に停止した以外に大きな影響はなく、若干の遅れをもってほぼ平常どおりの診療を行いました。一方、被害が大きかった茨木市より避難所支援の要請があり、発災当日から3日目まで医療チームを派遣しました。茨木市内には当初75カ所の避難所があり、地元の保健師だけですべてをカバーすることは困難な状態でした。当院からの医療チームは、地元の保健師と協力して避難所を巡回して状況を把握し、ブルーシートやアルコール手指消毒薬のボトルを持ち込んで避難所の衛生環境を整えたり、こころのケアの必要のある人はいないか、介護が必要な方はいないかなどの確認をしたりしていました。避難所は徐々に



避難所となっている体育館にて

閉鎖されて少なくなっていきましたが、昼間は仕事に出ていて、夜になると自宅で寝るのが怖いので避難所に戻ってくるという方が数多くおられました。

今回は、地震による負傷者は多くなく、また周囲の医療機関もほぼ通常どおりに動いていたため、これまでの東日本大震災や熊本地震のように、当院の持つ緊急対応ユニット(dERU)を動かすこともなく、これまでの医療救護とは異なる形での被災者の方々への支援となりました。今後も当院は非常時にあっても地域の皆さまの健康を守るために怠りなく準備をしていきます。



茨木市の保健師たちと協議



当院の国内外の活動については国際医療救援部公式フェイスブックに日々アップしていますのでご覧ください。

→ 右記のQRコードを読み取るか、「大阪日赤国際」で検索してください。



災害訓練実施のお知らせ 10月1日(月)実施予定

大阪府の災害拠点病院に指定されている当院では、今年6月に発生しました大阪北部地震のような近隣地震災害を想定した実践型訓練を毎年行っています。

今年は発災4日目を想定し、通常診療に戻すことを目的とした訓練を行う予定です。

訓練は10月1日(月)午後実施します。当日、予約のない診察(初診など)受付は午前10時で終了させていただきます。また、訓練中は救命救急センターも含め全館休診とし、病院敷地内への立ち入りや、建物への出入りが規制されます。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



災害訓練の様子「正面玄関前でのトリアージ」

Seminar 大阪赤十字病院『市民公開講座』を開催します テーマ: ロボット手術 ～未来に向けた最先端医療～

当院では一般の方を対象に、がんに関する市民公開講座を年に一度開催しています。今回は、最先端医療であるロボット手術をテーマに、胃・食道がん、泌尿器科領域、直腸がんに対し実際に当院で手術を執刀している医師3名が詳しく話をします。講座を通じて、日頃の不安や疑問を少しでも解消していただければ幸いです。どうぞ、お気軽にご参加ください。なお、参加費は無料、事前のお申し込みは不要です。

- 日時/平成30年11月10日(土) 13:00～16:00
- 場所/大阪赤十字看護専門学校 合同教室
- 講師/大阪赤十字病院 第一消化器外科部長 金谷 誠一郎
第二泌尿器科部長 光森 健二
消化器外科部副部長 野村 明成
- お問い合わせ/大阪赤十字病院 診療情報管理課
TEL:06-6774-5111(内線2302)



News 大空から「しあわせの花」すずらんが届けられました

5月31日(木)、全日本空輸株式会社の皆さまが、北海道で栽培されたすずらんの花の鉢植えと、しおりの贈呈に来院されました。すずらんの寄贈は、全日本空輸株式会社のご厚意により今年で63回目を迎えました。

当日は、1階正面玄関での寄贈セレモニーが行われた後、客室乗務員と地上旅客係員の皆さまにより、1階玄関ホール、8階A病棟、9階B病棟の患者さんにしおりが配られました。しおりにグループ社員の皆さまによる手書きのメッセージが書かれており、すずらんの絵の部分をかすと、すずらんの香りがします。その爽やかな香りとともに、患者さんやご来院の方々の笑顔が院内に広がり、すずらんの花言葉のとおり「しあわせ」が訪れました。



News 『赤十字運動月間』寄付金の報告

「赤十字」の創始者はスイス人のアンリー・デュナンです。1859年にイタリア統一戦争の激戦地で、デュナンが「苦しむ人は敵味方関係なく救護しなければならない」という思いを持ったことが赤十字の原点です。彼の誕生日にちなみ、毎年5月8日は世界赤十字デーと定められており、日本赤十字社では、この日を含む毎年5月を赤十字運動月間としています。

当院でも5月中旬に院内に設置した活動資金へのご協力をお願いする募金箱に182,234円のご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

人事異動情報 (平成30年4月6日～6月5日付)

- 採用** (4月6日付) ●北野 香雪(放射線診断科・非常勤嘱託医師) ●高田 斉人(外科部・非常勤嘱託医師) (5月1日付) ●梶原 正俊(外科部・医師) (5月11日付) ●岡田 啓(脳神経外科部・非常勤嘱託医師) ●堀 貴光(脳神経外科部・非常勤嘱託医師) (6月5日付) ●新宮 興(麻酔科・集中治療部・非常勤嘱託医師)
- 退職** (4月30日付) ●齋藤 澄夫(消化器内科部・医師) ●山川 百季子(眼科部・医師)

編集後記 最近、どんどん暑くなってきましたね。お身体には十分お気をつけください。さて、この夏号から「びり〜ぶ」を担当することになりました。皆さまに喜んでいただけるよう工夫をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。(Y.N)

病院のご案内

- 受付時間(月～金) (診療開始は午前8:45からです)
初診/月曜日～金曜日 8:30～11:30 再診/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 (病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護士にご相談ください)
平日/14:00～19:00 休診日/10:00～12:00、14:00～19:00
小児病棟(平日・休診日とも)/14:00～19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

当院は
敷地内全面禁煙です
当院は、敷地内全面禁煙を
実施しています。
ご理解とご協力をお願いします。



大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 平成30年7月発行

■お問い合わせ
TEL:06-6774-5111(代表)

大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>
赤十字全般 <http://www.jrc.or.jp/>

